

2026 年 3 月期 中間期決算説明会 主要質疑応答

米国の環境影響を大きく受けたということだが、どう乗り越えていくのか戦略を具体的に教えてください

- Spatial 製品は研究がメインなので、研究市場の低迷を受けて、立ち上がりが遅くなっているが、研究活動はゼロにはなっていないので、まずは研究フィールドで伸ばして市場に浸透させていきたいと考えている。
- 診断薬への展開について、既に PCR でバルクでの酵素提供を行っているので、もう一段レベルを上げて、顧客の要望に合わせてカスタマイズして提供していくことで、競争に勝ち抜けると考えている。
- 米国において、mRNA の市場はワクチンだけではなく、がん治療などへ応用範囲が広がっていくと見込まれるので、世の中の研究の成果を 1 つずつキャッチアップして、アプリケーションを広げていきたいと考えている。

今年の 6 月に社長交代され、大変な時期に交代されたと印象を受けるが、率直な感想を教えてください

- 真摯に受け止めて頑張っていきたい。

TBI-1301 のスケジュールを教えてください

- 希少疾患を対象としているので、被験者のエントリーが一番のボトルネックと考えている。現在、各治験実施医療機関の治験審査委員会で審査を行っているが、準備が整い次第、エントリーを開始できる。具体的なスケジュールはお伝えしかねるが、5 年以内に上市を目指すスケジュールに変更はなく、もっと早くなるように医療機関と協力していく。

「タカラバイオグループ長期ビジョン 2050」について、バイオものづくりへの展開は具体的にどういったことを考えているのでしょうか

- 2050 年ということで長期視点ではあるが、既に 1 歩踏み出している活動もある。例えば、熱に強い酵素が産業利用されており、当社はその酵素をバルクで供給している。このような産業利用への展開を考えていく。例えば、培養肉が流行っているが、当社としては、培養肉に使用される酵素など、それを下支えする製品の展開を想定している。

以上

【将来の見通しに関する注意事項】

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。